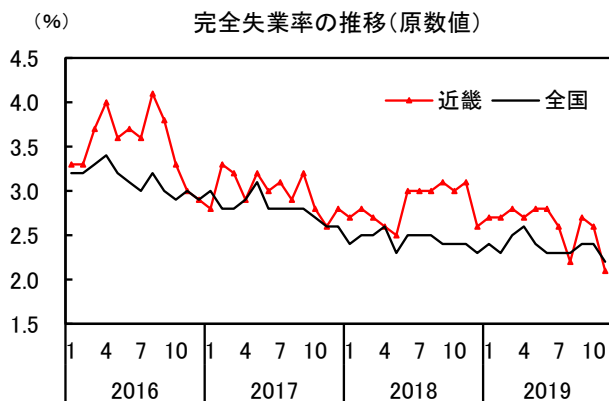
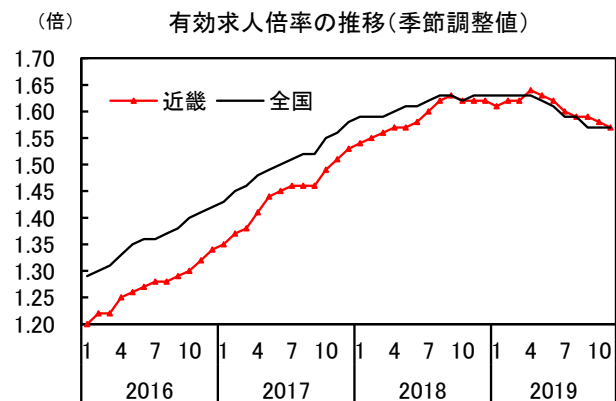


関西の景気トピックス【雇用関連（19年11月）】

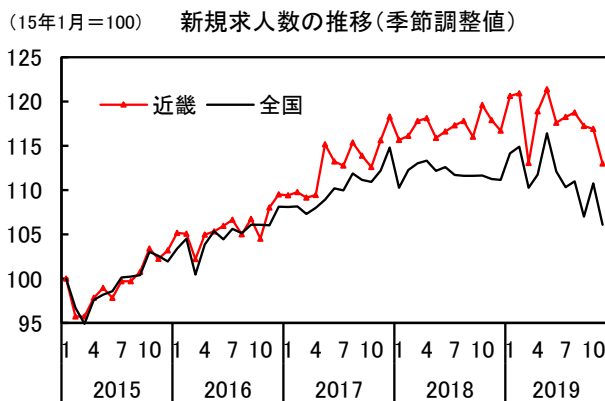
- 19年11月の労働力調査（総務省）によると、近畿の完全失業率は2.1%（原数値）と、前年比で1.0ポイントの低下となった。前年を下回るのは6か月連続。変化の内訳は、就業者数が前年比で22万人増えた一方、失業者は11万人減った。また、非労働力人口も12万人の減少となった。
- 一方、近畿の有効求人倍率（厚生労働省）は、19年8月は1.57倍（季節調整値）と前月比で0.1ポイント低下した。依然として水準は高いものの、19年4月に1.64倍でピークとなった後、7か月で0.07ポイント低下している。
- 近畿の失業率は低い水準が続き、有効求人倍率の水準も依然として高いなど、雇用情勢は概ね堅調に推移している。ただし、賃金の推移は力強さに欠けるほか、求人倍率もこのところ緩やかに低下しつつあるなど、トレンドが変わりつつあることに関しては、注意が必要といえよう。



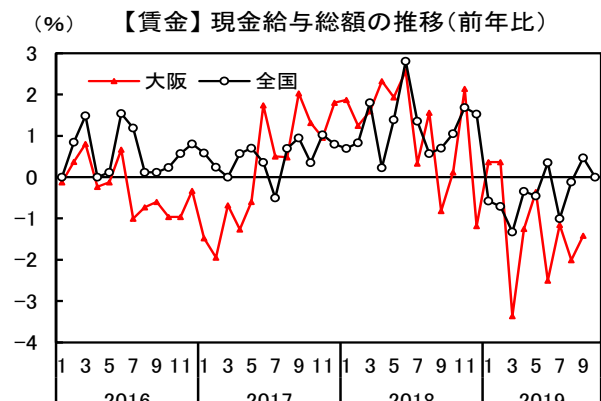
(出所)総務省「労働力調査」



(出所)厚生労働省「職業安定業務統計」



(出所)厚生労働省「職業安定業務統計」



(出所)厚生労働省「毎月勤労統計調査」